

編集室から

静岡県さんから、観光アドバイザを仰せつかって早、数年になります。先日、富士山の素晴らしい写真入りのお名刺を頂きました。

各地に伺った際、機会があればその名刺もお渡ししているのですが、肝心の静岡の情報が不勉強ではいけません…。そこで、欠かせないのが、本レターに毎号必ず書いていただいている溝口さん情報です。県外には中々流れない地元密着情報に触れられます。

さて、今月号は三日坊主とな...? 3回シリーズの初回とのこと。次号以降も楽しみです。御紹介の三寺のうち、油山寺だけ案内していただいたことがあります。眼病にご利益が在るそうで、境内には小さな滝もあり、滝行も指導していただけるとのことでした。私が昨年7月に入らせていただいた滝は奥丹沢の山中でしたから、比較的気軽に(?)滝に打たれるには、油山寺が便利かもしれません。そんなことを思い出しながら懐かしく拝見していました。

ところで、毎年感ずるのですが、どうやら季節が少しずつズレ始めているようです。今年は年を越してから雪が幾度も降り、冷え込みました。寒ブリも年越し後に獲れる始末。こうやって、冬が後ろにずれて短くなり、ついには殆どなくなってしまってからようやく温暖化に慌てるようでは、人間も有名な愚者の例え話「湯釜の蛙」になってしまうと危惧しています。

今月号の表紙写真は、昨年娘の下宿先を決めに行った際、お参りした春日大社です。この日は暖かい雨が降っていました。境内の木々やお社の屋根などが濡れ色で、印象的でした。

娘の居ない我が家でも例年通りお雛様を飾りました。(は)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2010/03

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2010/03

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

弥 生



春日大社にて
by hama

私が住む砺波散居村の屋敷林に囲まれた伝統的な吾妻建ち農家に最近、空き家が目立つ。大型SC、学校など、生活の便は、いわゆる過疎地とは比べものにならないほど良いにもかかわらずだ。稲作が収入にならなくなり、長男が家を継ぐという意識はもはやない。教育県富山は、そのまま学生流出県。加えて少子化。数百年の歴史はいとも簡単に途絶えそうだ。

ここ数年、地方の生活を最も変えたものは、インターネットと宅配便ではないかと思う。情報のやり取りを、宅配便が実体面で支える。時間と距離の制約がなくなった。例えば、小売業もネットショップとの競争。全国を相手に出来る半面、かつて交通網の発達で牛乳や八ムといった地場産業が消えたように、「地方であること」だけでは、生き残れない。

そんな中、ネットを使って地域を元気にする活動ができないかと、有志で小さなホームページ（「砺波野J.P」 <http://tonanino.jp/> 事務局・砺波散居村ミュージアム内）を作っている。わずかばかりの費用はすべて持ち寄り。古里の魅力を発信することで、交流人口を増や

し、将来は地場産業振興や人口増につなげたいとの狙いだ。地域の歴史や文化、イベント紹介のほか、研究論文なども掲載している。写真も少しずつ増えてきた。

現在は写真にしても文章にしても、電子化された素材がたくさんある。それを集めれば、意外に費用を掛けず、コンテンツを増やせる。原稿用紙を埋め、写真を現像し、紙に印刷していた時代に比べ、なんと手軽なことが。アクセスを増やすには、検索エンジンの上位に掲載されることが大切だが、これも情報量とリンクを増やすことで何とかかなりそう。

開設四年目。地域情報発信のベースとして、少しは認知されるようになったのが、関係団体からジョイントのオフ会も入り始めた。近くリニューアルを行う予定。どの地域でも、少しの知識と手間があれば、誰でも出来るやり方で…。これから先、どんな風が変わっていくか分からないが、ちよっぴり期待が出てきた。



【プロフィール】
（すま こういち）
一九五七年、富山県砺波市生まれ。
会社員。地域情報発信「砺波野J.P」運営担当。生涯学習NPO法人「土蔵の会」理事。財団法人まちむら交流機構認定グリーンツーリズムエスコーター。

濱のつばやき 『被』

人として生きている限り、不浄な出来事を避けることは難しい。

マスコミでは連日、「不正を暴こう」と叫ばれている。一方で四年に一度、たった一瞬の競技に人生を賭けた選手の手五輪中継を酒の肴にした酔客へのインタビュー映像が流される。

何が真に正しいのか。

国や地域、文化・宗教、そして時代によっても「正しさ」は変わってゆく。小さな家庭の中でさえ、意見が衝突するのは、個人・立場によっても「正しさ」が異なることを示してはいはしまいか。

つまり、「正義とは相対」なのである。

そして、正義は刃の如しでもある。一刀両断にするのが悪だけならまだしも、正しさと正しさとの衝突は争いを生み、本当は罪の無い人まで深く傷つけてゆく。形を変え、宗旨を変え、次々と玉突きのように他人を責めてゆくようでもある。

正義はまた、諸刃の剣でもある。他を斬るのみならず、自らをも斬る。自責の念である。これが高ずると心の病に陥ってしまう。家人がある書家のカレンダーを掛けている。二月には、こうあった。

大丈夫。 悲しみは、優しさに

苦しみは、強さに かわるから。

心に沁みる言葉である。が、苦しみや悲しみ・苦悩を、本当に強さ・優しさに変えられるには、何か別の鍵となるものが必要な気がする。自分だけが辛い思いをしている。こんなにも理不尽な目に遭っている。と考えている限りは、おそらく転換はできないだろう。

同じように苦悩を抱えて生きている人への共感、そして共にあろうとする心。そこには苦悩を乗り越えた強さ、優しさが生まれる。

自分と他人に共通する感情。それに気づいたことから生まれる「人間としての一体感」こそが、転換の礎なのではないだろうか。

裸は、不浄を被うという。しかし、自らだけ浄たらんとするならば、不浄は流れて他に移るばかりである。世の中全体として減ずる事は無い。

自らの安寧を求めるならば、家族が安らかでなければならぬ。触れるもの全てが平らかでなければならぬ。だとすると、不浄を被って他に移すだけでは、自らも完全に清められることには決してならないだろう。

全ての人間に共通の感情があり、それを元に人間同士の間を深く理解することで、自らの内に消化し、心を成長させるために、苦悩は在るものなのかも知れない。

だとすると究極の袈裟被いとは、苦悩・不浄を内に消し、決して他には付回さないことなのではなからうか。いささか大言が過ぎるかもしれないが、このお被いなら、大いなる和する魂・心を涵養できるように思う。春はもう、目の前に来ている。

『Skypeって便利ですよ』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

皆さんはSkypeって知っていますか？読者の大半の方はご存知でしょう。そう、インターネットで、無料で電話がかけ放題になるというサービスです。でも活用している人はどれくらいいるのでしょうか？

パソコンでSkypeに加入すれば無料で単なる電話がかけ放題になるだけでなく、WebカメラがあればTV電話として活用できるので、コミュニケーションの密度が全く変わってしまいます。

で、話はここから本筋に入ります。Skypeは月700円ほど払うと、固定電話にもかけ放題になります。固定電話の対象は全世界です。正確には1日当たりの通話件数だけ電話時間になんらかの制限があるのですが、これはこの際枝葉の話です。

何が本筋の話かということ、実家の母親とのコミュニケーションがSkypeを使うことで、飛躍的に良くなったという話です。

私の母親は77歳にして、もう20数年一人暮らしをしています。母親の家には月に1度程度は顔を出していますが、この頻度を増やすことは現実的には難しいものです。そこで極力電話をしているのですが、携帯があれば全て事足りるため、僕は6~7年前から固定電話というものを使わなくなりました。

でも携帯から固定電話に掛けると結構お金がかかります。しかも母親は77歳ですから、話は同じことの堂々巡り。感覚的には会話の中身の95%までは、これまでに何度も何度も聞いた話です。しかも話が長い。1回電話すると20~30分は話が続きます。正直、話していてイライラしてしまい、携帯から電話するのが嫌になってしまいます。要件を言って、ある程度話を聞いたら、こちらから無理やり電話を切るようなことが続いていました。

一方で母親からすると、1日誰とも会話していないという日もある訳で、たまに息子から電話がかかれば、話したいことが山ほどある訳です。(でもその話の大半は、すでに何度も話したことなのですが...)

そこで、Skypeなのです。

月700円しかコストはかかりません。PCに無指向性のスタンドマイクとスピーカーを接続すれば、ハンズフリーで会話ができます。部屋の中をうろつきながらでも、食事を摂りながらでも会話はできます。

ここ2週間で5回母親の家に電話し、1回あたりの時間が平均1時間45分！！これは驚異的な事です。その間におそらく僕が話している時間は合計10分程度で、残りの1時間半以上は母親が話しています。でもまったくイライラしません。お金を気にしなくていいということと、ハンズフリーな状態なので、母親が切るというまで会話をやめない心のゆとりが持っているからです。

しかし、便利な世の中になったものです。皆さんも一度試してみたいはいかがでしょうか。

『生活様式の転換期におこる現象』

SOS代表 川畠 嘉浩

私ごとではございますが、今年の9月に父親になりそうです。結婚5年目でとうとう子供が授かりました。正直な感想「やったぜ、こんちくしょー!!」です。汚い言葉で申し訳ございません。

という大きな事件が2月の中旬に起き、それから私の生活が大きく変わってしまいました。まずはタバコ。やめました。これまで禁煙にトライすらしたことがなかったのですが、何の未練もなくやめられました。

次に、家事。はじめました。今までもたまに創作活動気取りで料理くらいはしていたのですが、そこはやはり男の料理。素材に金をかける割には、どうすればおいしくなるか味の搜索活動。ですが、今のところ安定期までは何とかゴミだし、洗濯からはじめています。

三番目にお酒。外で飲む回数が減りました。今はかみさんのツワリが激しいため、ご機嫌を損ねないよう自粛している面もありますが、やはり今後お金の面でも入用が増えるかなと思うと、外で使うお金がおしくなりました。

最後に、子供をたくさん載せれる車探し。車はその人のライフスタイルの鏡だと思い続けてきた私にとって、これまでは「強烈に自らのアイデンティティを訴える」というカテゴリーの車が大好きで、日常生活のツールとしては全く不要と言われるような車ばかりを好んで乗り続けてきました。ところが、現在netで8人乗れるミニバンを探すのが楽しい日々。

とまあ、たった1つの出来事でこれまでの私はなんだったんだろうと思わされてしまうのです。

一言「ライフスタイルが変わった」と言ってしまうと、流行の変化のような捉え方をされるかも知れませんが、ここでは「生活の様式」と書かせていただきます。私の生活様式の変化によって、JTは高いライフタイムバリューが見込めた上顧客を失いました。

スーパーは時折高額食材を購入する客を失いました。いきつけの飲み屋は週3日も来てくれる得意客を手放すことになりました。そしてリコール問題で苦しむトヨタは、新たな顧客を見つけました。所詮私一人話とはとても言いきれません。企業のモノ作り、マーケティング努力とは別の軸でもまた、顧客は突然生まれ、そして消えていくのかもしれない。

今どこでも着地型旅行商品の開発が盛んになってきている。

団体旅行の多くは、出発地の旅行会社が企画した旅行商品を個々に申し込んで集合して旅行している。ところが、もっと個性的な旅をしたい、現地で面白い体験や交流をしたいというリクエストが増えてきている。これに応えるには、プログラムの開発から受け入れ体制を整えることが必要で、現地の者が動かないことにはできない。そこでできたのが着地型旅行商品というわけだ。

最近できた着地型旅行商品の内、最もお勧めするのが東海道53次のど真ん中27宿目にある袋井市の観光協会が企画したお坊さんを体験する旅「お坊さんの日常生活を体験し、新しい自分を発見してみませんか？」名付けて「三日坊さんの旅」がそれだ。

三日坊主の方が語呂がいい、でもそうしなかったのは、ここで体験したことを日々の暮らしに生かしてほしい、三日坊主で終わって欲しくないという意味からである。

袋井市には多くの参拝者を集める可睡斎、油山寺、法多山の遠州三山はじめ古刹が多い、これを観光資源にした。宗派が異なり調整が難しいことは容易に想像できる、にも関わらず、よくぞ企画したものだと感じた。

これまで何回かのモニターツアーが実施され、今回初めて一般募集をかけた。寒さ真っ只中の2月13、14日に寺で修業体験をしようというのだ。

袋井市観光協会長の太田さんから「溝口さん参加してくれますよね？」「もちろん五人ぐらいいは誘って伺いますよ」と見得を切った。早速、皆にメールで案内をした。しかし、いっこうに参加の返

事が来ない。戻ってきたのは、興味あり参加したいのだけど都合がつかない、膝が故障中につき正座に耐えられない、近ければ是非とも、だった。

自分も締切り二日前ほどから喉が痛くなり、できれば不参加と思っていたところに、「参加大丈夫ですよ！」の電話が入り、「は、はい参加しますよ」と言わざるを得なかった。なにしろ五人は連れて行くと言った手前、自分ひとりでも行かなくては申し訳ない状況にあったから。

13日当日、袋井駅前にある観光協会に集合、14名の修行仲間が集まった。

一番目のお寺は袋井山観福寺（793年建立、曹洞宗）ここで発心式を行った。

まずは、体に合わせ予め用意してくれた作務衣に白足袋を履き、僧侶になるために、住職が法性浄水を下げた頭に与える。これが仏門に入る儀式なのである。

この時、住職が話してくれたことが頭に刻み込まれている。人生25年を節目に学ぶことを主とする25歳までを「青春」、その後一所懸命働く50歳までを「朱夏」、人生の収穫に時期である75歳までを「白秋」、75歳以上を「玄冬」という、人生の区切りを意識するといいと諭された。小生も収穫を意識したステージに変えていきたいものである。

（つづく）

